

浪江駅西側地区公民連携まちづくりアイデア提案資料

タイトル:「巡るまち、つながる暮らし」

～交流を生む駐車スポットとまちを巡らせる新たなモビリティ提案～

渡邊 魁杜
川村 航大

目次

1. 提案書概要
2. プロジェクト概要
3. サービス内容
4. 初年度費用
5. プロジェクト参考事例



1.提案書概要

A. 必須項目	1	提案区分	地域経営主体
	2	提案者名	渡邊 魁杜(代表者) 川村 航大
	3	提案概要、特徴	車移動が主流の浪江町にスモールモビリティ(自転車やキックボード)という新たな移動手段を提供することで、今まで気づくことのなかった地域の魅力を感じながらまちを巡る体験を提供する。車移動から始まり、スモールモビリティで地域内を移動し、最終的に徒歩でまちを楽しむ。これにより、距離による「車→スモールモビリティ→歩き」という移動手段のグラデーションをつくることで、まち全体を緩やかに繋ぎ、自然に地域での交流を促進する仕組みをつくる。 震災後、浪江町では住民同士の交流機会が減少し、地域コミュニティの再生が課題となっている。これに加え、まちを巡るための移動手段が限定されていることで、地域内での滞在や交流が十分に生まれていない現状がある。スモールモビリティという新たな移動手段を提供することで、何気なく通り過ぎていたまちの魅力を再発見させ、交流を促し地域資源を最大限に引き出すようなきっかけをつくる。 さらに、本提案ではモビリティスポットを人々が自然に集い、交流する場として整備することを目指す。 代表者は実家のガソリンスタンドというモビリティの拠点で、地域住民が施設を利用する際に、職員や住民同士でコミュニケーションをとっている風景を目の当たりにしていた。(添付資料参照: https://preview.studio.site/live/BXaxz3dgO7/posts/Cge2FLog) 交流の拠点としてのモビリティスポットと、地域を巡る新たなモビリティの融合により、浪江町の魅力を最大限に引き出し、地域の活性化と価値の向上を実現するものとなる。
	4	事業主体・組織構成に関すること	代表者: 渡邊魁杜 協力企業: 株式会社渡辺商店 その他: 大学にも協力要請を検討中(下記記事を参照)
	5	土地利用、施設整備に関すること、必要敷地面積の概数(テナントのみの提案については、必用床面積の概数)	下記スポット等に、合わせて約54㎡ $0.6\text{㎡/台} \times 20\text{台} \times 2 = 24\text{㎡}$ 交流スペース10㎡ * 3スポット=30㎡ 計54㎡ 例 ・西側の駅前

		・FREI区画内 ・東側の整備区画内(株式会社渡辺商店)
6	施設運営に関する こと	スポットの日常的な運営:配置してくれる各所に協力要 請(売り上げの20-30%を報酬とする) 機器、スポットの定期メンテナンス:職員が行うこととする (週に1回)
7	提案の実現可能 性、持続可能性に 関すること	実現可能性 ・機器(スモールモビリティ)を低コストで揃えられる。 ・地元企業の協力によりスポットの整備が可能(例:渡辺 商店) 持続可能性 ・メインターゲットである若年から中年層(FREIの研究者 やその他移住者)の今後の地域への流入する見込みが ある ・大学と研究協力を結ぶことで、効率的な拠点ネットワ ークを構築していく
8	まちづくりへの協力 に関すること(まち なみ・景観形成・エ リアマネジメント等)	・まちの未利用空間の活用促進(モビリティスポットとし て) ・新たな移動手段による地域交流の活性化とコミュニティ ネットワークの構築促進
9	浪江駅周辺整備事 業との相乗効果に 関すること	1.住民交流の促進と地域コミュニティの再生 駐車スポットを交流の場とし、住民同士のコミュニケー ション機会を創出することで、地域コミュニティの再生を 図る。 2.移動利便性の向上 スモールモビリティの導入により地域内の移動手段を充 実させ、生活の利便性を高める

B. 選 択 項 目	1	資金計画、収支計画	—
	2	浪江駅西側地区において取組む意義や当地区の適性に関すること	・浪江駅周辺再整備計画の初期段階から検討に参加することで、全国で問題になっている電動キックボードを巡る交通問題への対策を講じることができる。(例:専用レーンの設置等) ・新しい移動手段の提供で地域の交流促進 ・ターゲット層の人口増加(若年層、中年層)
	3	本提案で解決する地域課題に関すること	浪江町内を移動する際、車移動がメインでまちを歩くことのハードルが高かった。スモールモビリティ移動を提案することで、距離による「車→スモールモビリティ→歩き」という移動手段のグラデーションをつくることで、まち全体を緩やかに繋ぎ、自然に地域での交流を促進する仕組みをつくる。 さらに、本提案ではモビリティスポットを人々が自然に集い、交流する場として整備することを目指すことで、利用者同士のコミュニケーション機会を創出し、地域コミュニティの再生を図る。
	4	本提案で活用する技術やソリューションと実証・実装に関すること	・研究機関(大学)への協力要請を検討中 以下参照 代表者研究資料: https://preview.studio.site/live/BXaxz3dgO7/posts/Cge2FLog 地域イベント登壇記事(東京大学主催): 浜セン1周年記念研究会を開催しました！ - 浜通り地域デザインセンターなみえ (u-tokyo.ac.jp) 復興コンペ入賞記事: U30復興デザインコンペ2023 受賞作品決定！ 東京大学復興デザイン研究体 (u-tokyo.ac.jp)
	5	地域住民や地域の事業者、関係団体との連携に関すること	・地域の未利用空間をモビリティスポットとする ・モビリティスポットをまちの新たな居場所にする事でコミュニティネットワークの構築を促す
	6	広域的波及効果や浪江町外との広域連携に関すること	—
	7	地域の価値向上、魅力向上に関すること	新たな移動手段の導入で、 ①利便性の向上 ②今まで気づかなかったまちの魅力を発見するきっかけを提供する

	8	地域資源の活用や、地域の歴史文化の承継に関する こと	—
	9	工区分割に関する こと、事業工程に 関すること	—
	10	提案実現のための 要件、実現可能性 向上のための浪江 町に対する要望 など	モビリティスポットの公共スペースへの設置許可（下記 スポットを希望） ・西側の駅前 ・FREI区画内 ・東側の整備区画内 スモールモビリティの利用を考慮した新規都市計画の検 討および整備

備考欄

・提案者略歴

1.

氏名

渡邊 魁杜(代表者)

出身

1998/9 福島県浪江町生まれ

経歴

2023/3 芝浦工業大学大学院 理工学研究科 建築学専攻 修了

2023/4 株式会社青木茂建築工房 入社

2023/10 株式会社青木茂建築工房 退社

2024/10 株式会社リクルート 入社

概要

芝浦工業大学大学院にて、浪江町の復興まちづくりを研究
(実績等は下記参照)

参考記事

代表者研究資料:

<https://preview.studio.site/live/BXaxz3dgO7/posts/Cge2FLog>

地域イベント登壇記事(東京大学主催):

[浜セン1周年記念研究会を開催しました！ - 浜通り地域デザインセンターな
みえ \(u-tokyo.ac.jp\)](https://www.u-tokyo.ac.jp/~u30/research/2023/03/20230320_01.html)

復興コンペ入賞記事:

[U30復興デザインコンペ2023 受賞作品決定！ | 東京大学復興デザイン研
究体 \(u-tokyo.ac.jp\)](https://www.u-tokyo.ac.jp/~u30/research/2023/03/20230320_01.html)

2.

氏名

川村 航大

出身

愛知県名古屋市

経歴

2022/3 東京都立大学大学院 都市環境科学研究科 建築学域 修了

2022/4 株式会社青木茂建築工房 入社

資格

一級建築士(第393549号)

宅地建物取引士(東京 第293934号)

・協力企業会社概要

商号	株式会社渡辺商店
所在地	〒979-1521 福島県双葉郡浪江町権現堂字新町20-13
TEL	TEL:0240- 35-3116
FAX	FAX:0240-35-3117
営業時間	8:00～17:30
定休日	日曜 年末・年始 お盆
代表者	渡辺良一
従業員数	5名(男3名 / 女2名)
設立	平成元年7月14日
資本金	1,000万円
取引先	地元住民 地元企業 災害復興担当企業 除染事業担当企業 他
サービス形態	フルサービス 他
取扱い油種	レギュラー ハイオク 軽油 灯油 混合油
お支払い	各種クレジットカード Pontaカード シェル スターレックス カード シェルビジネスカード 特別提携カード
各種サービス	配達サービス スタッフ給油 洗車機 オイル交換 タイヤ交換 各種 タイヤ販売 ワイパー交換 バッテリー交換 バッテリー販売 他

2.プロジェクト概要

1	タイトル	「巡るまち、つながる暮らし」 ～交流を生む駐車スポットとまちを巡らせる新たなモビリティ提案～
2	コンセプト	距離に関わらず車移動が主流の浪江町にスモールモビリティ(自転車やキックボード)という新たな移動手段を提供することで、今まで気づくことのなかった地域の魅力を感じながらまちを巡る体験を提供する。車移動から始まり、スモールモビリティで地域内を移動し、最終的に徒歩でまちを楽しむ。これにより、距離による「車→スモールモビリティ→歩き」という移動手段のグラデーションをつくることで、まち全体を緩やかに繋ぎ、自然に地域での交流を促進する仕組みをつくる。
3	事業背景	震災後、浪江町では住民同士の交流機会が減少し、地域コミュニティの再生が課題となっている。これに加え、まちを巡るための移動手段が限定されていることで、地域内での滞在や交流が十分に生まれていない現状がある。スモールモビリティという新たな移動手段を提供することで、何気なく通り過ぎていたまちの魅力を再発見させ、交流を促し地域資源を最大限に引き出すようなきっかけを創る。 さらに、本提案ではモビリティスポットを人々が自然に集い、交流する場を整備することを目指す。 代表者は、実家のガソリンスタンドというモビリティの拠点で、地域住民が施設を利用する際に、職員や住民同士でコミュニケーションをとっている風景を目の当たりにしてきた。(添付資料参照： https://preview.studio.site/live/BXaxz3dgO7/posts/Cge2FLoq) 交流拠点としてのモビリティスポットと、地域を巡る新たなモビリティの融合により、浪江町の魅力を最大限に引き出し、地域の活性化と価値の向上を実現するものとなる。
4	事業目的	1.住民交流の促進と地域コミュニティの再生 駐車スポットを交流の場とし、住民同士のコミュニケーション機会を創出することで、地域コミュニティの再生を図る。 2.移動利便性の向上 スモールモビリティの導入により地域内の移動手段を充実させ、生活の利便性を高める。
5	提案	1. スモールモビリティのレンタル a. 自転車やキックボードのレンタル: 住民や観光客が利用しやすいスモールモビリティ(自転車・キックボード)を提供し、まちを自由に移動できる環境を整備する。 b. 地域スポットの巡回提案: 利用者に対して、浪江町内の地域スポットを巡る経路を提案し、まち全体を体験してもらう仕組みを構築する。 2.モビリティスポットの交流スペース化 a.ストリートファニチャーの設置: モビリティスポットにストリートファニ

		チャー(ベンチやテーブルなど)を設置し、人々が気軽に集まり、交流できる場所を提供する。 b.周辺店舗との連携 : 停留所において、ガソリンスタンドや飲食店など、付近の店舗との連携を促進し、交流と商業活動を支援する。
--	--	--

3.サービス内容

スモールモビリティのレンタル

1	自転車やキックボードのレンタル	住民や観光客が利用しやすいスモールモビリティ(自転車・キックボード)を提供し、町内を自由に移動できる環境を整備する。
2	地域スポットの巡回提案	利用者に対して、浪江町内の地域スポットを巡る経路を提案し、町全体を体験してもらう仕組みを構築する。

モビリティスポットの交流スペース化

1	ストリートファニチャーの設置	モビリティスポットにストリートファニチャー(ベンチやテーブルなど)を設置し、人々が気軽に集まり、交流できる場所を提供する。
2	周辺店舗との連携	停留所において、ガソリンスタンドや飲食店など、付近の店舗との連携を促進し、交流と商業活動を支援する。

短期的な目標(3年)

1. モビリティ利用者・スポットを増やす。
2. 周辺店舗と連携した特典やイベントを配布し、地域の商業活動を促進する。→地域企業や団体との関係性は都市計画のワークショップ等で深めていきたいと考えている。

4.費用

初年度費用

	項目	概要説明	初年度費用 (千円)
1	1. 車両購入費	1台10万円 20台で計算(下記設備等も同様)	2000
2	2. モビリティスポット整備費用	家具費 50万円/カ所 3カ所	1500
3	3. 予約決済システム利用料	5500円/月	66
4	4. 保険	自賠責:36000円/年・台 盗難:270円/月・台×12=3240円/年・台	824.8
5	登録費	登録:2000円/年・台	40
6	5. 広告・宣伝費	SNS:Instagram等を自主運用 無料利用期間を設けるなど	0
7	7. 人件費	アルバイト 仮に週1回メンテナンス+清掃アルバイトで 算出 $0.1 \times 8 \times 4 = 3.2$ 万/月×12=38.4万/年	384
8	8. 事業許可申請費用	行政書士に依頼	300
9	9. 設備費用	各スポットの売り上げの20-30%を報酬として払う	600
10	10. 保守・点検費用	一台あたり年間2,3万円	600
		計	6,314.8

支援金制度(候補)

	補助項目	補助金名	補助率等
1	事業再開補助金	・対象事業者: 原子力災害被災12市町村において営業時に町村に住民票があった事業者 ・補助対象: 事業に要する経費の一部 ・補助率: 3/4以内 ・限度額: 3～3200万円×3年 備考: 復興再生拠点区域における事業に適用	—
2	創業補助金	・対象事業者: 原子力災害被災12市町村において創業するまたは事業承継する事業者 ・補助対象: 事業に要する経費の一部 ・限度額: 3～2250万円×3年 ・備考: 復興再生拠点区域における事業に適用	—
3	被災地復興や福島イノベ構想の実現等を支援	地域復興実用化開発等促進事業費補助金 浜通り地域等の早期の産業復興を実現するため、イノベ構想において重点的に取り組む分野に対して、地元の企業等と連携して行う実用化開発等を支援しています。	・最大補助率 3/4以内 ・最大補助額 7億円
4	被災地復興や福島イノベ構想の実現等を支援	福島県原子力発電所廃止措置関連地域 企業立地支援事業費補助金 原子力発電施設等の周辺地域における企業の立地と雇用機会の創出を図ることを目的とし、その立地に必要となつて支払った電気料金等に応じて、道府県が一定期間助成する制度です。	・電気料金の一部を補助 ・最大8年間交付
5	イノベ地域の企業・創業支援	福島イノベ構想の重点6分野関連スタートアップ支援 以下の2種類があります。ビジネスアイデア事業化プログラム(企業や事業展開の際の様々なチャレンジを支援する方向けの支援)、アクセラレーションプログラム(事業化を推進する方向けの支援)	・補助上限額 300～500万円

5.プロジェクト参考事例

まちづくりに関する事例

	トピック	具体的な事例	概要	リンク
1	ウォークアブルシティ化	コペンハーゲン(デンマーク) - 「ストロイエ歩行者天国」プロジェクト	歩行者のための空間	https://www.biz-lixil.com/column/urban_development/ps_reports012/
2	コミュニティスペースの創出	メルボルン(オーストラリア) - 「フェデレーションスクエア」 - 市民が集うイベント広場。	市民が集うイベント広場。	https://greenz.jp/2013/11/12/melbourne/
3	公園や緑地の活用	ニューヨーク(アメリカ) - 「ハイトライン」 - 廃線を利用した空中公園。	廃線を利用した空中公園。	https://hash-casa.com/2019/11/07/thehighline/
4	交流促進型カフェ	ベルリン(ドイツ)の「カフェ・カマレオン」。ロビー・レストラン・店舗の機能をひとつの空間に統合し、色のグラデーションによって柔軟性と楽しさを両立させる	ロビー・レストラン・店舗の機能をひとつの空間に統合し、色のグラデーションによって柔軟性と楽しさを両立させる	https://architecturephoto.net/128685/
5	地域資源の活用	ロンドン(イギリス) - 「バラ・マーケット」 - 歴史的市場を現代風に再利用。	- 歴史的市場を現代風に再利用。	https://www.jetro.go.jp/agriportal/trends/london/boroughmarket.html
6	パークレット	サンフランシスコ(アメリカ) - 「パークレットプログラム」 - 車道を緑地や休憩スペースに転用。	- 車道を緑地や休憩スペースに転用。	https://sotonoba.place/whatisparklet

モビリティレンタルに関する事例

	トピック	具体的な事例	リンク
1	自転車シェアリング	パリ(フランス) - 「ヴェリブ(Vélib) サービス」 - パリ全域で使える自転車シェアリングサービス。	https://www.velib-metropole.fr
2	カーシェアリング	ベルリン(ドイツ) - 「シェアナウ(Share Now)」 - 都市内でカーシェアリングを提供。	https://note.com/dech_/n/ndd0ddc9cab4a https://note.com/dech_/n/ndd0ddc9cab4a
3	ドックレスバイク	上海(中国) - 「オフオ(Ofo)」 - スマホアプリでどこからでも利用できる自転車シェア。	https://consulting.clara.jp/media/sanghai_sharecycle/ https://www.share-now.com/de/en/
4	電動キックボード	サンフランシスコ(アメリカ) - 「ライム(Lime)」 - 短距離移動用の電動キックボードシェアリング。	https://eu-startup.ashita-dl.com/escooter-lime/